

保護者各位

釧路市立大楽毛小学校
校長 鳴海 厚

津波避難マップについて

2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震では想定以上の地震・津波により未曾有の被害が発生しました。この道東地区でも、大津波の発生が心配されています。そこで、大震災を教訓とし、登下校時や自宅にいる時、想定外に対応することを目的として、「津波避難マップ」の取組を進めていきたいと考えています。

津波避難マップとは、いざというときにすぐ行動がとれるよう、各家庭で作成するマイマップです。家族で考え、書き込み、実際に見て歩いてみる等、避難に関する情報を体で覚えることが大切です。いざというときに、避難マップがなくてもこの経験が必ず役立ちます。まずは、ご家庭で話し合い、避難場所を確認することを早急に行い、いざという時の為に準備をしていただきたいと思います。ご多用とは存じますがお子様方の安全のため、ご理解・ご協力をお願いいたします。

津波避難マップ作成について

- ①地図に自宅と通学路を赤ペンで書き入れます。
- ②登下校中（通学路を歩いている時）に地震が発生したと想定し、避難場所に○をつけます。
- ③海拔〇mも参考にして、できるだけ高い場所を選びます。
- ④合わせて、家で留守番している時の避難場所を家族全員で確認し、○をつけます。
「各々一人でもそこに向かう」など、ルールを決めておきます。
- ⑤セーフノートのp18・p19にも書きます。（後で学校でも確認します。）

緊急発生時に行動出来るためには→ふだんから準備をしておく

事例 「津波てんでんこ」を実践するために

普段から子ども達に

「津波警報が出たときには、お父さんお母さんがいなくても、おまへの判断で、一刻も速く、高い所（津波の避難所）に駆け上がるんだよ。」と教えておく。

「お父さんは仕事場から、お母さんは買い物のマーケットから、家に戻らず、直接、避難所に行くから。」

「おまへは、親がいなくても自分一人で、急いで避難所に行くんだよ。」

「家族みんなは避難所で会えるんだからね！」

釜石市の小中学校では、この教訓が徹底していた。各自、順次、指定の避難場所に素早く移動した。

* ご不明な点などございましたら、学校（教頭）までご連絡ください。

* HP（ホームページ）にも掲載しています。